

ひろば

『要望と提案』で環境改善

「令和という新しい時代に支部として何ができるか、会員と一緒に考え、ともに行動していきたい」と語るのは野崎秀則建設コンサルタンツ協会



関東支部長（オリエンタルコンサルタンツ社長）。23日の総会での就任第一声。

ベースとなるのは「しっかりと技術を磨き、社会に役立つサービスを提供していく」ことであり、そのためにも「発注

者と意見交換して建設コンサルタンの環境改善につなげていく『要望と提案』は最も重要な活動」と位置付ける。

協会本部でも主導する、この要望と提案活動では「担い手の確保・育成と技術力による選定、品質確保」を3本柱とし、特に発注者と歩調を合わせた働き方改革の実現に意欲を見せる。

自然災害が激甚化・頻発化し、インフラ老朽化は加速度的に進む。人口減少もあいまって従来の延長線上だけではない、新たな知恵や工夫がより求められるだけに「技術と品質に優れた企業、技術者が成長する仕組みを整えていくことが大切だ」と力を込める。